

見方・考え方を変えて

境川中学校 一年一組 三島沙織

人に、自分の意見を指摘され、間違いに気づくということとは、誰もが経験したことがあるだろう。

左のこの絵は、一見普通の絵に見えるのではないだろうか。手前には、テントが張ってあり、森に流れている美しい川の岸には、何人も馬に乗った人々がいる。だが、この絵の中の人々は、恐怖にまだ気づいていない。

川を挟んだ、人々の反対側に注目してみよう。色々な所に獲物を待っているような狼たちが多くいるのが分かるだろうか。

ただの絵だと思っても、一部に注目すると、他の物が見えてくる、あるいは見つけるなどといったことは日常生活でも、よくあることである。たとえば、雲を見



ているときに、「あれはクジラの形だ」などと思ったことはないだろうか。一度そう思うと、ただの雲も、動物や物に変身するのである。

次に、この絵はどうであろうか。木々の下に、一匹の子鹿がこちらに顔を向けている。本当に一匹だろうか。木々の上の葉を、何か隠れていると意識しながら距離を離して見てみよう。何に見えただろうか。きっと大きな鹿が二匹、見えてきただろう。距離を離すことで、新しい発見が生まれる。

こういったことも、日常生活で体験することだ。遠くから木を見てみると、ここから見たら、ただ枯れ葉しかないように見えても、木の実が実っていたりする。

自分たちは、一度そう思うと、そうとしか思えなくなってしまう。だが、それよりも他の方法を考えてみたらどうだろうか。見方・考え方を変えることによって、今よりもずっと新しいことに気づくことができるのではないだろうか。

